2020 年度 COVID-19 状況下における国費学部留学生予備教育コース 既習者対象文章表現遠隔教育の報告

鈴木智美

キーワード：国費学部留学生、予備教育、文章表現コース、COVID-19、遠隔教育

1. 本稿の目的

本稿では、東京外国語大学留学生日本語教育センター（以下、JLC）国費学部留学生[1]予備教育コース（以下、通称「1 年コース」）において、2020 年度 1 学期に日本語Ⅲコース（上級レベルから学習を開始する既習者コース）にて行った文章表現の遠隔教育について、その概要の報告を行う。

2. 2020 年度 JLC1 年コース

2020 年度、世界的な COVID-19（新型コロナウイルス感染症）拡大の影響により、JLC1 年コースにて予備教育を受けることとなっていた国費学部留学生（以下、学部留学生）も、年度開始の 2020 年 4 月初旬の時点において、渡日することが不可能な状況であった[2]。日本国内においても、感染症拡大の防止のため、3 月初旬より全国の小中高校には臨時休校の要請が出されていた。

このような状況下で、JLC1 年コースでは、3 月中旬過ぎには、予定されていた 4 月 6 日より 2 週間遅く、4 月 20 日から 1 学期授業を開始することを決定し[3]、それにともない、1 学期の授業実施期間も、当初予定の 7 月 6 日終了から 7 月 17 日終了[4]と変更された。

この段階では、学部留学生の渡日期限が 5 月末まで延長される措置がとられた上で、渡日可能となった者から順次来日するという状況が想定されていた。したがって、授業開始日の 4 月 20 日から 5 月末までは、渡日した学生を対象に対面授業を実施しつつ、全員の渡日が完了するのをいわば待つ期間として位置付けられていた。渡日時期の遅れた学部留学生についても、この間の授業を後日録画で視聴するなどし、課題を提出することなどによって、その学習内容を補っていく

---

1 日本政府（文部科学省）奨学金留学生のうち、学部留学生のこと。来日後、最初の 1 年間は文部科学省の指定する予備教育機関（東京外国語大学あるいは大阪大学）で大学入学のための集中的な予備教育を受ける。詳細については「国費外国人留学生制度について」（文部科学省 http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/06032818.htm）を参照のこと。

2 「2020 年度 日本政府（文部科学省）奨学金留学生募集要項 学部留学生」では「5．応募者の資格及び条件（6）渡日時期」として「原則として 2020 年 4 月 1 日から 4 月 7 日までの間に渡日可能な者」と定められており（https://www. mext.go.jp/content/1415360_01.pdf）、通常、学部留学生は 4 月初めまでには渡日し、各教育機関で 4 月から開始される予備教育を受けることとなっている。

3 3 月中旬に、東京外国語大学学部・大学院においても、「新型コロナウイルス対応 2020（令和 2）年度学年暦」にしたがい、授業開始日は当初予定の 4 月 6 日から 4 月 20 日に変更となった。

4 試験期間、補講期間を除く日程である。

ことが可能となるように、授業内容を工夫することとしていた。そして、6月からは、無事渡日の済んだ学部留学生全員を対象に、あらためて対面による授業を本格的に開始したいと考えていたものである。

しかし、感染症拡大の状況は好転せず、学部留学生の5月末までの渡日の見込みも立たない状況が続き、4月初旬には、1年コースの1学期期間（4月20日～7月17日）をすべて、学生の渡日如何によらず、オンラインよる遠隔授業期間とすることで文部科学省の了解を得た。

1年コースでは、これに続いて9月1日からを2学期開始としており、学部留学生の渡日の可否および2学期の授業実施形態がどのようになるかついては、引き続き見通しが不透明な状況が続いた。しかし、その後、8月末から一部9月にかけて、学部留学生はそのほとんどの渡日が実現することとなった[5]。日本到着後2週間の待機期間中は、1学期と同様にオンラインによる遠隔授業を行うこととし、待機期間を経て学部留学生が無事に本学に到着した後、9月23日よりJLCにおいて2学期の対面授業が開始され、11月現在継続中である[6]。

3. 日本語コース

4月20日開始の1学期の授業をすべて遠隔教育で行うこととなり、1年コースでは、授業受講にあたってまず各学生のインターネット環境を確認する調査が行われた。オンラインによる遠隔授業には、同期型と非同期型（オンデマンド配信）の形態が想定される。同期型の授業を実施するためには、世界各国・地域から受講する学生たちの時差に配慮する必要があり、また、授業動画等を視聴するための十分なインターネット環境が整っているか等についても確認する必要があった。

インターネット環境の調査に続き、日本語のコース分けのためのアセスメントテストがオンラインにて実施された。2020年度、日本語のコースでは、日本語の既習度にしたがい、Ⅰコース（初中級レベルから学習を開始するコース）、Ⅱコース（中級レベルから学習を開始するコース）、Ⅲコース（上級レベルから学習を開始するコース）の3つのコースを設定することとしていた。アセスメントテストの結果、Ⅰコース3名、Ⅱコース23名、Ⅲコース38名とコース分けがなされた。

Ⅲコース（上級開始レベル）では、1学期の遠隔教育の期間中には、「総合（上級）日本語」「文章表現」「中級復習」の3つのコースを立てて進めていくこととし、TUFS Moodleを教育プラットフォームとして、授業・課題の配信と、課題提出、フィードバック・指導を行っていくこととした。以下の図1に、4月20日コース開始時に、Ⅲコース学生を対象として配布したオリエンテーション資料のうち、課題の出題・提出のサイクルを示した部分を掲げる。

---

[5] 国別あるいは個別の事情により今年度の渡日が難しく、来年度の奨学金留学生に変更等の措置を受けることとなった者は、JLCで受入れ予定であった学部留学生64名のうち4名あった。

[6] 1クラスの受講者人数が多い場合、および東京都およびその周辺における感染拡大の状況から教員の通勤事情に配慮が必要な場合等、対面授業の実施が難しい科目については、一部遠隔授業（Zoomを使用した同期型授業）が行われている。

■受講の方法

1. 課題の出題サイクル

「総合」「文章表現」「中級復習」は、以下のようなスケジュールで進められていきます。週によっては、異なる場合もありますので、それぞれの指示をよく見てください。

＊課題提示が**週に複数回**行われる場合もありますので、注意してください。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
総合	課題提示 （締切はその都度指示します）			翌週の教材提示 （予習用）	
文章表現	課題提示 （2 週間に 1 回）		提出課題は翌週に返却します。		17:00 課題提出締切
中級復習	課題提示 前週の課題提出				授業動画視聴
学習相談	Ⅲコースの勉強について、質問があったらここで問い合わせることができます。				

図 1　日本語Ⅲコースオリエンテーション資料抜粋：課題出題のサイクルについて

4. Ⅲコース文章表現の概要

Ⅲコースの文章表現については、本稿の執筆者がコーディネーターを担当し、課題の設定、課題の配信、個別フィードバックの担当割り振り、全体へのフィードバック解説の配信、成績報告を行った。学生への個別フィードバック・指導については、計 5 名の教員で分担して行った。コーディネーター教員が 9 名の個別フィードバックを担当し、ほか 4 名の教員が 6 名～ 8 名ずつを担当した。それぞれの学生がなるべくいろいろな教員の視点からフィードバックが得られるよう、4 ～ 5 月（課題 1 ～ 3）、6 ～ 7 月（課題 4 ～ 6）で、担当するグループをシャッフルした[7]。課題の配信・フィードバック等、すべて TUFS Moodle をプラットフォームとして行った。

以下の図 2 に、4 月 20 日コース開始時に、Ⅲコース学生を対象として配布した文章表現コースオリエンテーション資料の一部抜粋を示しておく。

[7] 2 学期の文章表現の課題フィードバック（10 月～）は、計 4 名の教員で分担することとなっており、来日したⅢコース学生 36 名について、新たに 9 名ずつにグループ分けして担当している。

2020年（令和2年）4月20日（月）

留学生日本語教育センター国費学部留学生予備教育プログラム（1年コース）
日本語Ⅲコース：文章表現　1学期（4/20～7/17）の勉強について

■目標

日本の大学で学んでいくために必要な論理的で説得力のある日本語の文章が書けるようになることを目標とします。

1学期には、身近なことを含め、社会的・文化的トピックに焦点を当てます。論旨の明快な構成で、目的に合わせた的確な表現を用い、事実について的確に説明できるようになることを目指します。

2学期には自分の考え・意見を根拠・理由とともに説得力をもって述べられるようになることを目指します。時事的・専門的な事柄も扱う予定です。9月および2月には、まとまった分量のレポートを書く課題も予定しています。

■内容と進め方

設定されたテーマにしたがって、複数の文章（作文）を実際に書いていきます。
出題・提出・返却は「TUFS moodle」を使って行います。

（1）「TUFS moodle」で「日本語III コース：文章表現」のコースに登録する。
（2）その週に設定されている「課題」を見る。
（3）「課題」の指示にしたがって、作文を執筆する。
（4）作文を提出する。

＊ファイルは、「WORD」等の文書ファイルで提出してください。
＊日本語ワープロソフトの準備が間に合わない場合は、手書きの作文を「PDF」ファイルにして提出してください。
＊画像が鮮明である場合に限り、「jpeg」でも受け付けますが、あまりおすすめしません。

＊**ファイル名**は、必ず「文章1_ジェイソン_20200420」のようにしてください。
「**コースの名前（文章）課題の番号_ニックネーム（カタカナ）提出年月日**」です。

＊「TUFS moodle」へのアクセスと、各コースへの登録については、Ⅲコースオリエンテーションの「**■受講の方法**」を見てください。

（5）フィードバックを受け取る。
（6）必要に応じて、個別指導（Zoomミーティング）の設定も検討します。希望がある場合は、メールで連絡するか、「TUFS moodle」の「日本語III コース：学習相談」まで連絡してください。

■成績評価

課題の遂行状況を見て、合格か不合格によって示します。

■教科書・参考書等

特にありません。

■受講上の注意

（1）1学期の学習内容は、2学期の学習に継続していきます。2学期以降の学習に支障が生じないよう、1学期の学習は着実に進めてください。
（2）課題の提出は、**締切日時を厳守**してください。
締切に遅れた場合は、返却も遅れ、次の作文を執筆するまでにフィードバックが得られない場合もあります。
（3）文章表現の課題提出は、2週目から始まります。
1週目のうちに、日本語を使って文章を作成し、課題の提出ができるように準備を整えておいてください。

■課題の予定

＊課題についての詳細は「TUFS:moodle」で知らせます。
＊毎週「TUFS moodle」の「Ⅲコース:文章表現」の指示をよく見てください。

【文章表現課題1】：自己紹介　800字以内（句読点を含める）
↑＊この「1」が**提出ファイル名**の中に入れる**番号**です。

【文章表現課題2】：自国の文化について　1,000字以内（句読点を含める）
【文章表現課題3】：私の日本語の学び方　1,000字以内（句読点を含める）

【文章表現課題4】：～（あなたの国の名前）の学校制度
800字以内（句読点を含める）
【文章表現課題5】：ブックレポート：私が最も紹介したい本
800字以内（句読点を含める）

図２　日本語Ⅲコース文章表現オリエンテーション資料抜粋

5. Ⅲコース文章表現の遠隔教育内容

Ⅲコース文章表現では、学期中、計6回の課題を設定し、出題（説明、サンプル作文あるいはフォーマット等の提示を含む）、課題提出、個別フィードバックと指導、全体へのフィードバックを1つの流れとして、順次進めていった。解説動画等の配信は特に行わず、Moodleの課題設定機能を使用し、文章で説明を示していくこととした。

従来の1年コース文章表現では、まず手書きで文章を書く課題から始め、日本語の文書作成（ワープロ）ソフトを用いた文章の作成は、1年間のカリキュラムにおいて後半に扱うこととしていた。しかし、今回は、遠隔教育によって課題提出とフィードバックを行うこととなったため、いずれの課題も紙媒体を用いることはなく、電子文書の形態をとることとなった。オリエンテーション資料（図2）にも示した通り、日本語の文書作成（ワープロ）ソフトの準備が間に合わない等の場合には、手書き作文のPDF化や撮影写真による提出方法も認めていたが、結果的にはすべての課題がワープロソフトを用いた電子文書で提出された。日本語の既習度の比較的高い受講生グループであったため、このことによって特に混乱等が生じることはなかった。ただし、既習漢字を正確に書くことができるかどうか等については、従来のように文章表現課題の中で確認することはできなかった。

文章表現コースでは教科書は特に指定しなかったが、課題遂行のために必要と思われる場合に、参考資料として、従来JLC1年コースで使用してきた文章表現テキスト（横田・伊集院2013）の一部（「書き言葉」「分類の表現」部分）を、著作権表示とともに、複製や配布を行わないことを条件として明記し、PDFファイルで配布した。

コースの主要な流れは以下の表1に示す通りである[8]。

表1　日本語Ⅲコース文章表現2020年度1学期遠隔教育内容（すべてMoodle使用）

［第1週］4/20～4/24　オリエンテーション
［第2週］4/27～5/1　【文章表現課題1】テーマ：自己紹介
字数：800字以内（句読点を含める）　文体：丁寧体（です・ます体） 提出締切：5月1日（金）17:00（日本時間） 〈目標〉 ＊自分自身について、的確にわかりやすく紹介する。 ＊内容を整理し、段落を適切に作る。 ＊最も伝えたいことを内容に含める。
［第3週］5/4～5/8　【文章表現課題1】フィードバック
(1) 作文の形式を守る。 (2) 書き言葉で書く。 (3) 全体の構成を考える。
［第4週］5/11～5/15　【文章表現課題2】準備：書き言葉の練習
「です・ます体」　丁寧な話し言葉 「である体」　書き言葉　＊レポートや論文を書く時 「普通体」（「だ体」）　書き言葉　日記などを書く時 「普通体」　くだけた話し言葉　SNSなどで交流する時

[8] 表1は、Moodleに掲載した内容を一部簡略化し、その概要を示したものである。

［第 4 週］5/11 ～ 5/15 【文章表現課題 2】テーマ：自国の文化について

字数：1,000 字以上～ 1,200 字以内（句読点を含める） 文体：である体
提出締切：5 月 15 日（金）17:00（日本時間）
〈目標〉
＊ 自国の文化について、焦点を定めて、述べる。
＊ 単なる観光案内や行事紹介にならず、人々の考え方や価値観、歴史的な背景などの視点、あるいは他文化との比較の視点を持って書く。
＊ 内容を整理し、段落を適切に作る。段落と段落のつながりにも注意する。

［第 5 週］5/18 ～ 5/22 【文章表現課題 2】フィードバック

(1) テーマ・内容について
(2) 作文の構成について
「始まり」：作文の内容を読み手に適切に予告する、読み手の注意を引きつけるなどの機能がある。文章の内容が自然に展開していくように、後に続く部分とのつながりが必要。
「結び」 ：内容をまとめて終わる。歴史あるいは現代社会などに対する何らかの洞察や、将来に向けての提言などを含めることも可能。
(3) 語彙・文法について：「コロケーション」（語と語の自然な結びつき）

［第 6 週］5/25 ～ 5/29 【文章表現課題 3】テーマ：私の日本語の学び方

字数：800 字以上～ 1,000 字以内（句読点を含める）文体：である体
提出締切：5 月 29 日（金）17:00（日本時間）
〈目標〉
＊ 自身の日本語の学び方について、何らかの視点を定め、内容・構成をよく考えて述べる。
＊ 単なる説明にとどまらず、考察・意見などを含める。
〈視点のとり方の例〉
・ 日本語の学習段階（レベル）に合わせた工夫
・ 読む、書く、話すなどの技能的側面ごとの分析
・ 行動や性格と、それに合った勉強方法や勉強スタイル
・ 学ぶ目的と動機、そこから導かれる実践の方法
・ 自分の母語との違いや、他の言語、あるいは他の科目の学習経験との比較 等々

［第 7 週］6/1 ～ 6/5 【文章表現課題 3】フィードバック

(1) 内容と構成について
書きたい「中心」になること（主張したいこと）が明確であること、かつ全体の筋が通っていること。中心になる主張が明確で、それに基づき、段落ごとに内容が的確に配置されていることが重要。自分の考えやアイディアを言語化し、メモにとり、整理して、準備するとよい。
(2) 文の始めと終わりの結びつき：呼応（照応）する表現に注意
・疑問表現（何／誰／いつ／なぜ／どうして など）＋「か」
・理由を述べる表現：日本語の勉強を始めたのは、日本のアニメを字幕なしで見たいと思ったからだ。
・名詞述語でまとめる必要がある場合：
大切なのは、目標を立てることだ。
日本語の勉強を始めたきっかけは、隣の家に日本人の家族が引っ越してきたことだった。
(3) 硬い文体における表現
例）政府はよく調べたほうがいい。
→ 政府は、｛十分に／慎重に｝調査を行うことが必要だ。
政府には、｛十分に／慎重に｝調査を行うことが求められる。
この味は、たくさんの人が好きだと言っている。
→ この味は、多くの｛人／人々｝に好まれている。

［第 7 週］6/1 ～ 6/5　【文章表現課題 4】準備：分類の表現

［第 8 週］6/8 ～ 6/12　【文章表現課題 4】テーマ：～（あなたの国）の学校制度

字数：800 字以上～ 1,000 字以内（句読点を含める）　文体：である体
提出締切：6 月 12 日（金）17:00（日本時間）
〈目標〉
＊ 国の学校制度について、明快に説明する。
＊ 段落ごとに内容をよく整理して書く。
〈考えるヒント〉
・ 教育段階（初等教育、中等教育、高等教育）から見ると、どのように分類できるか。
・ 何歳から初等教育を受けるか。義務教育は何年間か。高等教育への進学率はどのぐらいか。
・ 特筆すべきシステムはあるか。例）進学のための全国統一試験、「飛び級」制度、学費が無償
・ 教育において重視されていることはあるか。例）ICT 教育、協調姓、自立性
・ 学校制度に関連する社会的問題点や課題等 例）教育格差、受験競争、社会的な不安定さの影響　等

［第 9 週］6/15 ～ 6/19　【文章表現課題 4】フィードバック

(1) 指示されたテーマに沿った内容を書く
(2) フォーマットにしたがって書く

［第 10 週］6/22 ～ 6/26　【文章表現課題 5】準備：ブックレポート（例）

［第 10 週］6/22 ～ 6/26　【文章表現課題 5】テーマ：ブックレポート

字数：1,000 字～ 1,200 字程度（およそ 1,000 字から 1.200 字ぐらいの間に収める）文体：である体
提出締切：6 月 26 日（金）17:00（日本時間）
〈目標〉
＊ 自身の選んだ 1 冊の本について、その本の内容を的確に伝える。
＊ その本のどんなところが評価できるのか、どんなところに心を引かれたのかを、「考察・感想」部分を通じて伝える。
＊ 書誌情報を正しく記す。
＊ 対象は「文章」で書かれた本とする。（漫画、写真集、画集などは除く。映画、絵画、美術品などの制作物の紹介も除く）
＊ 本の記述言語は日本語でなくてもよいが、その内容を日本語で的確に紹介する。

［第 11 週］6/29 ～ 7/3　【文章表現課題 5】フィードバック

(1) 書誌情報を正しく記す。
日本語以外で書かれたものは、原語による情報（書名）を記し、必要に応じて日本語訳を添える。
何らかの言語から（母語あるいは日本語などに）翻訳されたものは、翻訳者の情報も必要。
翻訳版の情報に加え、原著（もとの言語版）の情報も示す。
(2) 基本的な概念や事柄について説明する
ある概念を巡って議論を展開したり、考察を述べたりするには、まず、その前提となる概念や事柄について、明確に定義したり、説明を行っておくことが必要。
(3) 基本的な文構造や、文の論理関係を正しく書く。
「誰が」何をしたのか、「誰が」「何について」どう考えたのかなど、事実関係に混乱をきたさないように明確に述べる。指示詞（「それ」など）が何を指しているのか、接続詞（「したがって」「一方」など）によってつながれる内容が、その接続詞が意味する対応関係と一致しているか、などにも注意。

［第 12 週］7/6 ～ 7/10　【文章表現課題 6】調査レポート：興味のあるテーマと調査トピック

調査レポートを書く準備：
(1) 興味・関心を持っているテーマを 1 つ～ 3 つ挙げる。
(2) それぞれについて「何を調査するか」、調査トピックの例を「疑問文」の形で 1 つ～ 3 つずつ挙げる。

分量：A4 判　1 ページ以内 形式：箇条書き・である体 （箇条書きの場合は「、」は使うが、基本的に短い 1 文でまとめ、「。」は使わない。） 提出締切：7 月 10 日（金）17:00（日本時間） ＊ 9 月の調査レポート課題： 興味・関心のあるテーマを 1 つ選び、その背景事情等を調べた上で、2,000 ～ 3,000 字の調査レポート（文献・資料に基づく調査レポート）をまとめる。 ＊ トピック例と解説
［第 13 週］7/13 ～ 7/17　**【文章表現課題 6】フィードバック**
(1) 形式面 「箇条書き」で、1 つの項目が複数行にまたがる場合には、「インデント」機能を使って、左側の「頭」（行の最初）をそろえる。 (2) 内容面 ＊ 範囲の明確化、前提の明確化、問いの細分化、使用する資料の明確化などに注意 ＊ <u>調査トピックの絞り込み</u> 範囲が広すぎるテーマは、問題として扱う範囲を特定する必要がある。同時に、何を資料として調べれば、探している答えが得られるのか、調査の手段を具体的に想定しておく必要もある。 ＊ <u>調査トピックの精査</u> 調査目的がはっきりしない（どんな問題を論じることにつながるのかがわからない）トピックは、再考の余地がある。調査トピックを絞り込まず、いきなり「論じる」タイプのテーマも「調査トピック」としては適当ではない。論じるためには、「絞り込み」によって範囲を明確にするとともに、まずは調査トピックを細分化し、複数の調査を積み重ねていく必要がある。 （そのような論証型のレポートは、1 ～ 2 月のレポートの課題となる。）

第 10 週の課題 5「ブックレポート」については、執筆のためのフォーマットを兼ねて、コーディネーターがサンプルを 2 種作成し、Moodle に掲載した[9]。この課題では、受講生からは、小説（歴史小説、推理小説、ミステリー、ファンタジー等）、日本あるいは母国の作家の短編小説、児童文学、ノンフィクション（社会・文化に関する分析、差別やフェミニズム等を扱ったものを含む）、歴史･思想書など、それぞれが感銘を受けたもの、また、心に深い印象を残した種々の本が紹介された。

第 12 週の課題 6「調査レポートのテーマ」は、2 学期の 9 月のレポート作成に向け、その準備として設定された課題である。コーディネーターがトピック例を作成し､解説とともに Moodle に掲載した。例として「香港国家安全維持法」「日本や韓国におけるアイドルタレントの自殺」「米国ハリウッドの好興業成績映画」を取り上げ、トピックの絞り方についての解説を行った。

受講生の母国が世界各国・地域にまたがることから、課題のフィードバックを同期型の個人指導形態で行うことは難しく[10]、フィードバックはすべて Moodle をプラットフォームとして行っ

[9] サンプル作成のために使用したのは、米原万里（2002）『オリガ・モリソヴナの反語法』集英社（文庫版 2005 年）、岡田暁生（2005）『西洋音楽史』中央公論新社（中公新書）の 2 冊である。

[10] 全受講生に対し同期型の個別指導の予定を組もうとすると、時差の関係から、受講生あるいは担当の教員のいずれかに、早朝あるいは夜遅くの時間帯を指導時間として設定する必要が生じてしまうためである。同時期に 1 年コースの他の授業のほか、東京外国語大学学部・大学院の授業も遠隔教育の中で行われており、受講生、担当教員ともに長期間にわたる体調の維持･管理等が求められる中、本文章表現コースにおいて、定期的・継続的に通常の学習時間外にあたる時間帯を指導時間として組み入れることは避けることとした。

た。個別フィードバックは、計５名の担当教員が提出された課題のファイルにコメントを付して個々に返却し、全体に向けた注意事項は、表１に示したように、コーディネーターがポイントをまとめ、Moodle に解説を掲載した。

なお、Ⅲコース１学期の文章表現は、課題の遂行状況を見て総合的に合格判定を行うこととしていた。自国にとどまったまま遠隔で学習を続けるという異例の状況の中ではあったが、受講生は締切に遅れることなく、各課題に取り組んでいった。１名の受講生のみが、家庭の事情や心理的な要因等から安定的に学習に取り組むことに困難を生じ、１学期文章表現の成績は不合格の判定となった。ただし、この受講生の日本語の既習度は高く、文章表現力自体には大きな問題が見られるわけではなく、２学期以降の学習が順調に行われるよう期待することとした[11]。

6. まとめと今後の課題

本稿では、東京外国語大学留学生日本語教育センター国費学部留学生予備教育コースにて 2020 年度１学期に行われた日本語Ⅲコース（上級レベル開始の既習者コース）文章表現の遠隔教育の実施内容について報告を行った。

国費学部留学生は渡日後に予備教育を受けることが定められているため、渡日前に本国にとどまったまま遠隔教育で予備教育を受けることはきわめて異例の事態であった。日本語既修者を対象とした文章表現コースでは、異例の状況下においてもなるべく通常と同様に、課題を課し、その指導を行うことで教育を継続させることを考えた。

本稿では、実施の状況を記録的意味でまとめるにとどめ、そこから生じる様々な教育的な影響等にまで踏み込んだ考察は行っていない。遠隔教育による予備教育そのものの実施の可能性と問題点等については、別途、検証・考察が必要とされる事項であると思われる。文章表現コースでは、対面による個別指導を行うことはできなかったが、一方、明示的に文章で書き表すことでフィードバックと課題解説とが行われ、このことは少なくとも今後の文章表現コースに役立てることが可能ではないかと思われる[12]。

引用文献・資料

文部科学省「国費外国人留学生制度について」
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/06032818.htm
横田淳子・伊集院郁子（2013）『大学で必要とされる日本語文章力の習得をめざす 初級・中級文章表現』（第２版）東京外国語大学留学生日本語教育センター

（すずき　ともみ　東京外国語大学大学院国際日本学研究院 教授）

[11] 渡日後、11 月現在この受講生も問題なく２学期の学習を進めている。

[12] 文章表現指導には、対面により執筆者の意図を確認したり、つまずきの生じた要因を探りながら個人指導を行っていくことはやはり欠かすことができない。２学期以降には、対面による個人指導形態でフィードバック指導を組み入れている。

Report on an Advanced-level Writing Course Conducted Remotely for MEXT Pre-Undergraduate Students during 2020 COVID-19

SUZUKI Tomomi

KEYWORDS: Pre-undergraduate students on the MEXT scholarship,
Preparatory education, Writing course, COVID-19, Remote education

The purpose of this paper is to report on an advanced-level writing course conducted remotely online due to 2020 COVID-19 restrictions for Tokyo University of Foreign Studies MEXT pre-undergraduate students in JLC (Japanese Language Center for International Students).

Due to the worldwide spread of COVID-19 (coronavirus disease), MEXT pre-undergraduate students were unable to come to Japan as of early April 2020. Since the situation did not seem to improve after that, it was decided that the entire first semester of the preparatory education (April 20th to July 17th) had to be conducted remotely as an online class.

In this advanced level writing course, 6 tasks were set during the semester. Giving assignments with explanations and sample texts, submission of assignments, individual feedback, and feedback to the entire class were all conducted through TUFS Moodle on an educational platform.

One-year preparatory education after coming to Japan is mandatory for MEXT pre-undergraduate students. It was extremely unusual for them to receive preparatory education through distance learning in their home country before coming to Japan. However almost all the students completed the writing tasks before the deadline.

Due to the time difference, it was not possible to schedule tutorials for every student individually. However, it will be beneficial to take this opportunity to record in detail the task description and feedback for the future of the writing courses.